更新　2018年8月7日
2018年11月5日
2018年11月7日
2019年1月11日

統計学 One Point 9

計算代数統計
グレブナー基底と実験計画法
正誤表

【12ページ】

式 (1.8)

(誤) $\langle f_1, \ldots, f_r \rangle = \{h_1 f_1 + \cdots + h_r f_r \mid h_1, \ldots, h_r \in K[x_1, \ldots, x_r]\}$

(正) $\langle f_1, \ldots, f_r \rangle = \{h_1 f_1 + \cdots + h_r f_r \mid h_1, \ldots, h_r \in K[x_1, \ldots, x_n]\}$

【13ページ】

本文下から5行目

(誤) $\mathbf{V}(\langle f_1, \ldots, f_r \rangle)$ の任意の元 f について，

(正) $\langle f_1, \ldots, f_r \rangle$ の任意の元 f について，

【27ページ】

式 (1.14) の最後の行

(誤) $u_1^{(b-1)} y^{b-1}, \ldots, u_{S_{b-1}}^{(b-1)} y^{b-1}$

(正) $u_1^{(b^*-1)} y^{b^*-1}, \ldots, u_{S_{b^*-1}}^{(b^*-1)} y^{b^*-1}$

【56ページ】

下から9行目

(誤) 互いに素である元の組

(正) 互いに素でない元の組

【58 ページ】

最初の式

(誤)
$$\begin{aligned} S(f_3, f_4) &= yf_3 - zf_4 \\ &= xyz - 3y^2 - yz^2 + 3yz - 28y + z^3 - 12z^2 + 28z \\ &= (3y+28)f_2 + (z-12)f_3 + (x-z)f_4 \end{aligned}$$

(正)
$$\begin{aligned} S(f_3, f_4) &= yf_3 - xf_4 \\ &= 3xy + xz^2 - 12xz + 28x - 3y^2 - 28y \\ &= (3y+28)f_2 + (z-12)f_3 \end{aligned}$$

【89 ページ】

下から 4 行目

(誤) $\mathbf{I}(U \cup V) \subset \mathbf{I}(V),\ \mathbf{I}(U \cup V) \subset \mathbf{I}(W)$

(正) $\mathbf{I}(V \cup W) \subset \mathbf{I}(V),\ \mathbf{I}(V \cup W) \subset \mathbf{I}(W)$

下から 2 行目

(誤) $\mathbf{I}(U \cup V) \subset \mathbf{I}(V) \cap \mathbf{I}(W)$

(正) $\mathbf{I}(V \cup W) \subset \mathbf{I}(V) \cap \mathbf{I}(W)$

【98 ページ】

6 行目

(誤) （3^{3-2} 計画）

(正) （3^{4-2} 計画）

【99 ページ】

式 (2.23) の上の行に，以下の脚注を追加する．

(脚注) 例えば一つ目の関係式を $x_1(x_1-1)(x_1-2)(x_1^2+1)=0$ と置き換えた連立方程式も，$\mathbb{Q}^4$ 上で同じ D_4 を定める．このような「考えている体上で根をもたない余分な因子」があると，連立方程式が定めるイデアル I よりも $\mathbf{I}(\mathbf{V}(I))$ が大きくなる，ということが起こりうる．Hilbert の（強）零点定理（式 (2.18)）は，このような状況を説明している．

【118 ページ】

定義 2.10 の式

(誤) $\mathrm{Est}_{\prec}(D)=\{u \mid u\in M_n \notin \mathrm{in}_{\prec}(\mathbf{I}(D))\}$

(正) $\mathrm{Est}_{\prec}(D)=\{u\in M_n \mid u \notin \mathrm{in}_{\prec}(\mathbf{I}(D))\}$

【129 ページ】

最初の式の左辺

(誤) $\begin{pmatrix} \theta_{00} \\ \theta_{10} \\ \theta_{20} \\ \theta_{30} \\ \theta_{01} \\ \theta_{11} \\ \theta_{21} \\ \theta_{03} \end{pmatrix} = \cdots$ **(正)** $\begin{pmatrix} \theta_{00} \\ \theta_{10} \\ \theta_{20} \\ \theta_{30} \\ \theta_{01} \\ \theta_{11} \\ \theta_{21} \\ \theta_{02} \end{pmatrix} = \cdots$

下から 7 行目の式

(誤)

$$= \frac{1}{6}(15.0-3.2x+8.1x^2-2.5x^3+12.9y-5.7xy-0.9x^2y+0.9y^3)$$

(正)

$$= \frac{1}{6}(15.0-3.2x+8.1x^2-2.5x^3+12.9y-5.7xy-0.9x^2y+0.9y^2)$$

訂正してお詫びいたします.

著者